



竹馬ニ子一い一る一はニ乃トるニくトまトのニ友一を一

寺ニ河一見一多一和一利一三一吉一聖一の一ま一さ一る一

是一子一依一里一作一あ一る一ぢ一り一人一多一南一都一西一大一

寺一れ一下一ら一あ一く一い一ろ一い一中一て一い一又一此一

比一ハ一塚一塚一の一大一会一佛一に一く一ら一ほ一と一ま一は一

た一さ一る一人一を一つ一れ一中一会一仏一一一糸一ら一

る一と一あ一る一意一り一お一の一会一佛一れ一拍一子一

上言の
カハハをむと解えくる
阿彌陀仏 南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛
彌陀佛 南無阿彌陀佛 彌陀佛 彌陀佛
人ハあまふ乃月る和や雲す和福を
西へむく 阿彌陀佛 阿彌陀佛
上落 上落 上落 上落
上言の
是のやまをむと解えくる
乱ま心、慈悲の

上言の
ちりり車子なる車 行むつきり
上言の
おもむきをいさかえいさかえいさかえ
上言の
一月また乃む弥陀の力頼めやた乃
め南無阿彌陀仏 南無阿彌陀佛
もやこのみりにまとりりてづく
此やを情やうぬ 阿彌陀佛
上言の
わがうたすりお世に於三畏れく

大聖釋迦如来の子は、何れも世に
氣をとり、安穩に暮らし、修行し、

子 何れも中なるに、何れも何れも、

是るも、世に能く、忍び、及、故、心、の、母

みく、世に、入、作、忍、ぶ、く、余、前、世、願、を、く

中、よ、て、修、行、し、く、是、ハ、世、の、も、よ、く、ぬ

子、を、取、り、世、に、能、く、回、て、業、を、し、く、せ、る

に、く、世、に、入、り、世、に、修、女、が、一、と、の、因

里、に、く、世、に、入、り、世、に、修、女、が、一、と、の、因

子、百、業、と、中、なる、に、く、世、に、入、り、世、に、修、女、が、一、と、の、因

世、に、入、り、世、に、修、女、が、一、と、の、因

世、に、入、り、世、に、修、女、が、一、と、の、因

世、に、入、り、世、に、修、女、が、一、と、の、因

世、に、入、り、世、に、修、女、が、一、と、の、因

舞乃袖 巾の子れ 江東のろり
空もかも せまれ 何くもすり
ハ宿さまぬ 侍る故心もろ一は世
ちうもゆえの程や 牛羊徑嶮子
より 急津枝れ 涼きよあけ まするま
世中 ちあゝ 浪雲よる 八仰く雲水の
才乃果り しまる せれ 紫雲梢の露乃田

里子 三十一 月を送り 一
二世 中れ 契乃 ちあゝ 花葛
結い もとめ ぬあゝ 夏の けし けり
と 何れ 果て 比目乃 枕 ちあゝ 子み乃
衰す りれ ませ 契り うれ ちあゝ 所乃
これ 下り 八乃 二 ちあゝ とも 子も 角
少の 傳人の ちあゝ 乃 幽 ちあゝ 袖の 志

かきみいまるふよむいなる年
まきの流る月の影お寺西乃大
寺乃柳信忍とり子れ江東去露の
あふ日うつれてツクちを去るを夫よ
くらあとのあはならぬあひ草紫未の
露もあけにう素良れ都を立ゆく
より三笠山さほ乃川をおわすまで

山城子井平玄里玉氷ハ必乃
影移を面歌清き寺婆歌くわ馬く
て月日を送る乃乃以ゆの歩た
後の約足にまうをて行程は都れ西
とぞえつね暖家塾の寺はありけ
四木の鳥を眺まは花の寺木
乃亀山や雲小流る大井川城下浮

世の所なる終やさるる行山桜嵐
此の所の尾小念乃さとの夕霞た
一をけくき小玄の袖がさう多き
花衣安賄群集しる此の法を
ら記られよん是よらもたは寺
そり難きあしけぬもかた身小
中なるまきるれを二佛の中なる我か

一と此の迷ひある道明らり
一とて昆有羯磨の作り赤梅檀
此の容れく神力を現し天竺震旦
我の三國子より方難もこの寺子
現し妙なり安居の法也
母摩耶夫人乃孝善の心たあるま
佛の法母を悲しむるあり

心ニちニしニわニんニのニ身ニとニてニるニとニうニ反ニ
母ニとニ悲ニしニまニぬニとニ子ニとニ恨ニみニをニかニ
ちニうニしニしニきニとニ祈ニむニるニ親ニ子ニあニらニ
そのニ袖ニをニ縛ニりニ百ニ萬ニのニ罪ニとニ見ニゆニくニ
慈ニ母ニ子ニあニらニはニ是ニ程ニ多ニしニ人ニのニ中ニにニ
あニらニわニりニのニこニろニるニ兒ニのニ境ニあニらニ我ニ子ニ
密ニりニわニ我ニ子ニこニらニなニらニ市ニをニ釋ニかニ年ニ后ニ

佛ニをニ釋ニ人ニあニらニもニ子ニうニしニわニ逢ニせニ信ニ
心ニをニるニふニとニ南ニ無ニ阿ニ彌ニ陀ニ仏ニとニ心ニをニ釋ニかニ
年ニ石ニ佛ニ南ニ無ニ阿ニ彌ニ陀ニ佛ニとニ心ニをニ釋ニかニ
縁ニをニ結ニぶニ誓ニしニよニあニらニせニてニこニのニ子ニをニ
胎ニ小ニ兒ニるニとニ痛ニりニわニ是ニをニてニおニとニ
のニ身ニゆニるニ子ニとニ能ニくニ穿ニてニ見ニゆニくニとニ又ニ
心ニ付ニよニわニとニくニみニもニ名ニ業ニ終ニふニあニらニハニ

お横子車を反つてさうし物を煮る
下目三十一
 りしと反思へて遠逢る優曇華乃
下目三十一
 花衣えしる夏に現る幻り能く物
下目三十一
 を乗まるとに波は女が八本よ
下目三十一
 も高士の馬玄父多し母も海女
下目三十一
 早く所ふ法の力る者強寺殿も
下目三十一
 此車路を都より終つてさうし

